

つくば市民大学が「100人の村」になりました



子どもたち以上に保護者の方々の真剣な表情が印象的でした

毎年恒例となった夏休み親子講座。今年は7月31日に「やってみよう!『世界がもし100人の村だったら』」を開催し、幼稚園生から小学校高学年までの子どもたちと、その保護者の方々が集まりました。2001年以降、メールメッセージで世界中に広まった「世界がもし100人の村だったら」をテーマに、実際に身体を使いながら、地球上の格差や多様性を体感するゲームで、「世界」「よのなか」について語り合うワークショップです。「役割カード」を使った様々なアクティビティや、ロープで囲んでつくったユーラシア・アフリカ・アメリカ・オセアニアなどの地域に移動して人口密度を体感するゲームなどで、マイノリティ・マジョリティ双方の立場を経験しました。最後は、あの有名なメッセージ「世界がもし100人の村だったら」をみんなで朗読。自分が実際に「村人」になってみたあとにこの文章を読むと、その重みがいっそうまじてきたに違いありません。

三遊亭楽松さんを招き、落語ワークショップ開催!

9月3日、三遊亭楽松さんをお招きして開催したワークショップ「『変わり者』天国?～落語の中のダイバーシティ～」が開催され、市内外から約30名が参加しました。この日の演目は「一眼国」。数の多寡によってマイノリティとマジョリティがぐるりと入れ替わるという、ちょっと不思議なおはなしです。この落語をもとに「自分って『ふつう』と違うなあと思ったことはありますか?」「『ふつう』と思っていたけどそうではなかったということはありますか?」というテーマでグループ対話をしました。小学生から五十代、視覚障害者やベトナムからの留学生、スーダン出身の男性など、様々な立場の参加者が集まっていたこともあり、いろいろなエピソードを聞くことができ、それぞれが「ふつう」という言葉の意味を問い直す場となりました。なによりも、座布団一枚、扇子一本で、いきいきと繰り広げられる落語ワールドを間近で堪能し、皆さんとても満足そうでした。



ベテランの落語家さんの芸を至近距離で。迫力満点です

メソドロジー学群「仲間を増やす市民活動のプレゼン術」開講



様々なチラシを比較検討し、集客に効果的な作成術を学びます

地域での様々な活動を応援する「メソドロジー学群」が7月からスタート。その1つとして開催された本講座では、口頭でのプレゼンとチラシなどの紙媒体によるアピールの仕方を、「く伝える」とく「伝わる」のギャップを埋めることをめざして学びました。講師は代表幹事の徳田太郎さん。活動のために仲間を増やす、参加者を募る、資金調達をするたびに、「伝わる伝え方」を要求されているのに、盛り込みすぎだったり、遠い夢だけを語ってしまったり…ということが多いもの。そこで第1回では、2分間プレゼンを繰り返し、相互にフィードバックして磨きをかけていきました。ぶっつけ本番もダメだけど、仮に入念に準備しても、原稿を読んでいるだけではまったく伝わらない。徳田さんのアドバイスは効果てきめん。回を追うごとに皆さん、端的に話せるようになり、聞く側は内容に共感し、ギャップが埋まっていきました。 ※今後の開催予定は同封のチラシをご覧ください

つくば市民大学はこんな人たちがやっています！

～ 徳田太郎さん ～



つくば市民大学の発展・成長のために、定期的に会議を開き、熱心に活動方針を話しあい、講座企画・運営を先頭となって引っ張ってくれている5名の幹事のみなさん。

普段はなかなかオモテに出ることはありませんが、「市民大学ってどんな人たちがやっているの？」という会員のみなさまの素朴な疑問にお応えして、ユニベルだより紙上で、幹事の方々のプロフィールを紹介しています。

今回登場するのは、つくば市民大学創設当初から参画している代表幹事・徳田太郎さんです。

●出身地

茨城県牛久市

●好きなこと

「あまちゃん」のロケ地を巡ること、PerfumeのライブDVDにあわせて踊ること、高層湿原をのんびり歩くこと、ウイスキーをちびちび飲むこと

●市民大学で企画した講座

「ソーシャル・ファシリテーション入門講座」「対話ファシリテーション入門講座」「ワークショップのつくりかた」「フューチャーセッション『わたしたちの公園』をつくる！」「Be the change! ガンジーに学ぶリーダーシップの旅」「ウブントウ! マンデラに学ぶ、対立の越

え方・関係の築き方」「発達障害やその傾向がある方の就労支援ワンストップ相談会」「男子、女子、そうでない人? ～『あたりまえ』を疑えば世界はこんなにも豊かだ!～」「く違)を楽しむモヤモヤカフェ」「スロー・シネマ・カフェ」 などなど

●市民大学以外での活動

自分たちの未来を、他人任せにせず、ともに創っていく。そんな仲間の輪を、みなさんとともに、さらに広げていきます。

●今後の抱負

現在、法政大学大学院・公共政策研究科に在学中。「熟議民主主義」の研究を深めます！

注目講座 子どもに寄り添うための「見る」「考える」 「子どもを見る」～支援の手立てを考えよう～

私たちは子どもに困ったことが起きると、ただ「困った」を繰り返すばかりで、「困った」という問題の本質をつかむことができず、堂々巡りの議論を繰り返すことがままあります。

一方、「わかったつもり」になってしまい、独りよがりや偏見に陥ってしまうことも少なくありません。この講座では、「何:What? と'なぜ:Why?」を繰り返しながら、子どもに寄り添うための、「見る」「考える」を学びます。

【第1回】「見る」ということを考える (終了しました)

アセスメントの意味、その手順について、不登校を事例に、何が問題なのか、なぜ問題なのか、グループで検討し、学びました。詳しくは「ユニベルブログ(9月1日)」をご覧ください。

【第2回】「具体的な手立て」を考える

より具体的な事例について、What?(何が)とWhy?(なぜ)を繰り返し、よりよく見、よりよく理解しようと努めながら、具体策をともに考え、手立ての目的と目標を確認し、手立ての有効性を検討することを中心に体験いただきます。

■講師 小野村哲さん(認定NPOリヴォルヴ学校教育研究所)

■日時 2016年10月23日(日) 13:30～16:00

■対象 子どもの支援に関心のある方

■参加費 2,000円

※詳細は同封のチラシを参照

【第3回】「ロールプレイ」で学ぶ 2017年1月7日



代表幹事・徳田の「オススメの一冊」

互 盛央(著)『日本国民であるために—民主主義を考える四つの問い』(2016年6月・新潮選書)

同世代の書き手が出るたびに「若いのにすごいなあ」と感じる。が、よく考えてみれば、すでに私自身「若くはない」わけで、単に何事かを成し遂げるにふさわしい年代になっているというだけの話。この本の著者も私と同じ1972年生まれ。違うのは、私のように馬齢を重ねてはいないということだけなのでありました(馬にも失礼?)。

ここでの4つの問いとは、「電車を待つ列に割り込みをするのは悪いことか」「学級委員の選挙で自分に投票するのは『ずるい』ことか」「無関心ではないのに、政権にも、政権に反対する人にも賛成も反対もできないということは認められるか」「過去の日本人の罪を現在の日本人は謝罪しなければならないのか」。身近な問いからスタートしつつ、民主主義の本質に分け入っていく論考は圧巻。個人的には、ルソーの「一般意志」を、ソシュール言語学をベースに解釈するくだりが「目からウロコ」でした。そして、日本国憲法の成立過程の分析を元に導き出される、「私たちが「日本国民であるため」の条件とは? 推理小説にも似たスリリングな展開と、あっと驚くまさかの結論!

まさに、「今ここで読むこと」にふさわしい一冊です。(徳田)

スタッフよりヒトコト

皆さんが叶えたい夢は何ですか? 自分を知り、自分の中にあるコミット(約束)したい夢と繋がり、それを他人へ伝え、共に協力してもらい、分かち合うことで叶えられる夢。ふと、自分の夢を叶える力は、メソドロジー学群で学ぶ「6つの力」と似ていると思いました。もちろん市民活動をされる皆様向けの学びですが、個人が人生を生きるための知恵にも繋がるような気がします。この秋、一緒にいかががでしょうか?(江塚)

つくば市民大学

〒305-0033 つくば市東新井 15-2 ろうきんビル 5階

Tel: 029-828-8891 Fax: 029-828-8892

e-mail: info@tsukuba-cu.net Twitter: @tsukuba_cu

web サイト・Facebook: 「つくば市民大学」で検索